

第 3 5 2 回 難 研 セ ミ ナ ー

下記により難研セミナーを開催しますので、多数御来聴下さい。

記

日 時：平成 17 年 7 月 11 日(月)18:00 ~ 19:00
場 所：[湯島地区] 医歯学総合研究棟(期棟) 2 F
医学科講義室 1

演 者：Josef M Penninger 博士

Institute of Molecular Biotechnology of the Austrian
Academy of Sciences 所長

演 題："Learning from SARS infection?"

要 旨：Josef M Penninger 博士は骨、免疫、シグナル伝達など広範にわたる分野に於いて輝かしい業績を修めている。2003 年に新しい研究所、IMBA の立ち上げのためにオーストリアに招致され、昨年にはオーストリアの最も優れた研究者として表彰された。このたび、Penninger 博士らは、急性呼吸窮迫症候群のマウスモデルにおいて新たな展開を見出したので、本セミナーにて紹介する。急性呼吸窮迫症候群は、セプシス、肺炎などによって引き起こされる重篤な症状であり、致死率は 30 - 60% に及ぶにもかかわらず、確実な治療方法が現在に至るまで見出されてなかった。Penninger 博士らは Angiotensin Converting Enzyme (ACE2) が急性呼吸窮迫症候群を抑制する効果を持っていることを発見した。さらに、ACE2 と重症急性呼吸器症候群(SARS)との興味深い係わり合いについても紹介する予定である。

過去 2 年間の主な業績：Imai *et al.* Nature 2005 (in press), Kuba *et al.* Nat. Med 2005 (in press) Wada *et al.* Nat Med 2005, Hara *et al.* J Exp Med 2004, Cheng *et al.* Neuron 2004, Joen *et al.* Immunity 2004, Wada *et al.*, Nat Cell Biol 2004 (他 25 報)

連絡先：仁科 博史 nishina.dbio@mri.tmd.ac.jp

(発生再生生物学分野 教授 内線 4659)

免疫疾患分野 (鰐田教授 内線 5817) との共催による。